

## 超、熟年同窓生のバリ島青春小旅行

伊野部敦子、宮地 春美、鍋島 淳子  
村山 静子、山下 瑞穂、上田 隆右

はじめに 関西地区の土佐高二十八回生の同窓会は、二十年以上前から、四月上旬の休日、近畿各地で、満開の桜を愛で乍ら昼食・歓談し、付近の名所を散策するのが慣例だった。

ここ数年は、会社の定年、子育ての解放で自由時間が増え、交際の広い、多彩な女性群が幹事を引き受けてくれた事から高知、東京からも多数の参加を得て、春のひと時を京都、神戸の観光旅行も含めて賑やかに交流し、旧交を温めている。

2011年4月14日、神戸北野の大東苑中華館で、藤田女史の幹事で盛大に開催され、インドネシア勤務が長かった山下君も久し振りに出席した。

話題は海外旅行で盛り上がり、この勢いから高知の伊野部（I）さん、宮地（M）さん、関西の鍋島（N）さん、村山（m）さん、男性は山下（Y）さん、上田（A）の六人で、南国の樂園「バリ島（ジャワ島：ジョグ・ジャカルタ）」観光ツアーは、即座に纏まり、元気澁刺で後期高齢者になった同窓生の海外旅行は実現の運びと

なった。

旅行の日程は2011年6月5日(日)～6月9日(木)

三泊五日、関西組は二泊四日

宿泊ホテルはグラランド・ハイアット・バリ

(超豪華バリ最多七百五十室リゾートホテル)

主な観光場所と出来事は、感想、エピソードを含めて以下に紹介する。

六月四日

高知組、泉北ホテル・ビッグアイに宿泊(泉ヶ丘駅前の寿司屋で前夜祭四人)

\*五月十一日

大阪難波ニューミュンヘンで関西の四人事前打ち合わせ、盛り上がる。

六月五日

関西空港に八時半頃、関西組は夫々空港バス、泉北四人はタクシーで全員集合。いざ出発。ビザ料金のドル交換時、Mは肝心のパスポートを忘れた事に気付くハプニング。高知との冷静で見事な連携対応でパスポートを取寄せYの航空会社・責任者との粘り強い直談判により、翌日のフライトを無事確保し更に融通の困難な格安のエコノミーから1ランク上のビジネスクラスの席まで用

意させて（こんな事は初めて：とネシアの支店長は唸り顔）、Mの喜びは元より、全員安堵で胸を撫で下ろした。

ガルーダ航空GA833 十一時出発、機上の人にロマンチックなりゾート気分には弾む。デンバザール十七時五十五分到着（約七時間のフライト）。天候は曇り：雲の上にアグン山などバリの美しい霊山が出迎えてくれる。Hグランドハイアットでチェックイン、部屋は広く豪華でお殿様気分、大感激。ホテル内でレゴンダンス付ディナーショー、異国情緒豊かなダンスは神秘的で優美、魅惑的だ。同席のうら若き女行員三人が花を添える。

六月六日 六時過ぎ、ホテル前の白砂のビーチでインド洋上から真紅のご来光は素晴らしい。世界最長の砂浜を二軒隣のバリヒルトンまでのんびり至福の散策、スパの早朝の勧誘。最高級のバリヒルトンの美しい絵画的なホテル内を横断し、南国情緒溢れる静寂な緑に覆われた広い街並みを漫ろ歩く：椰子の実が転がり、所々で



黙々と清掃している。

部屋近くのオープンカフェで朝食。バイキングは珍しいジャワ料理が多く新鮮な果実、野菜は豊富、美味しい。ランチ用パンを余分に取込み、昼からの観光時間の節約を計る。

ホテルのプールでリゾート気分を満喫し、生まれて初めて紺碧のインド洋上に繰り出し水泳。(写真右下、撮影は鍋島さん)

十八歳の美男美女に若返り？華やかな色彩水着のお姫様の喚声は喜寿の齢を忘れる。

十一時 “ウブド地区” への観光。

ゴア・ガジャ：洞窟寺院と沐浴場で古代王朝の遺跡。  
タンバクシリン：高原の避暑地で聖なる泉の湧水池と癒しの沐浴場。丘上の大統領の大別荘が人目を引くが、密集した土産物屋のジグザグ道を潜り抜けるのは苦痛だった。車窓から眺められる熱帯特有の椰子の木々と幾重の棚田の風景は、どこかで抒情的。道路端で食べた果物の王様ドリアンは、少し苦かったが産地特有の



風味で美味しかった。

ネガ美術館：古典から現代迄のバリ絵画の名作は圧巻で美しい自然の中の名美術館。街の中心地の小さなプロ・ルキサ？美術館に立寄る。Iは熱心に作品について話している。

往來の激しい雑踏の名物市場でN、Iはサラサを買う。値切るのが常識とか…。待望のケチャックダンスの会場へ。宮地さんと無事合流出来て大感激、歓喜の奇蹟？だ。古代インド叙事詩ラーマヤナをベースにバリの伝統的な呪術舞台劇で、百人前後の半裸の男達が燭台を取り囲み、ケチャケチャの幻想的な掛け声が繰り返し舞う中、王子、姫、悪の大王、猿などに扮した踊り手のストーリー展開が魅力的で美しかった。

神秘的な夢の世界から一転して、ジンバランの心地好い海風がそよぎ、点々とキャンドルライトが灯る開放的なビーチのレストランで、海鮮料理：特大の伊勢海老と巨大な蟹が夫々二匹のスペシャルメニューを加え、潮騒の音を聞きながら、全員でたらふく貪り食う。

旅の最大のイベント、バリの夕暮れの豪華なディナーを心いく迄楽しんだ。

六月七日

今朝も六時に海岸線を散策、快晴の為か朝日は急に輝き、辺り一

面が明るくなる。昨朝と反対の突端の公園へ。延々と続く真っ白い砂浜と椰子に囲まれた遊歩道は快い。

朝食のデザートに女王のマンゴーを堪能する。豪華で箱庭的な美しいプール、果てしなく広大で透明なインド洋で水泳に、水遊びに、バリ特有の超贅沢な時間を再満喫する。Mが加わりオールメンバー、華やかさも倍加し、本来の旅の楽しさ、喜びを実感した。

昼前にショッピング：老舗のジャワ珈琲の店で、女性達は夫々の好みの品定め。に大童。コーヒーを飲まないNは紅茶、クッキーを中箱二つ買い込み、交友の広さに驚く。免税店プラザバリではサラサのシャツを思い思いの人へのお土産に探している。

クタの繁華街、丁度帯屋町？…のスーパーで特産のチョコレート、干しマンゴーを買う。空港より安いと言う。バリ通のYはブランド店へ入り中々出てこない。

島の東部、夕日で有名なタナロット寺院に向けて十四時出発。狭い道路にはバイクが溢れ、車の前横を平気で駆け回る。中には夫婦子供二人乗りで暴走するのは怖くて信じられない。

途中、タマンアユン寺院へ：バリ屈指の規模と美しさを誇る歴史的な国寺で、堀に囲まれた広大な庭園の緑とマッチして、神殿や塔群の整然と建ち並ぶ光景は

優美である。

タナロット寺院での夕日を觀賞するため十七時過ぎに見晴らしの良いテラスに陣取る。待つ間、小島に建つ寺院、美しい絶壁の海岸線を眼前に、椰子の実汁は美味しかった。

段々と夕暮れが迫り、輝く赤い太陽は水平線の雲に遮られ美しく姿を消していく。クタの有名なダイナスティホテル（五つ星）での豪華な中華料理、リッチな雰囲気、美味で大満足。バリ最後の晩餐会は旅の思い出、Mの奮闘記など話は尽きず楽しかった。

今夜帰る関西のN、mお二人を国際空港に見送る。過度の緊張か、バリへの心残り？なのか。雑踏の中、何度となく振り返り、不安げに深夜のロビーに消えて行った。

夜型のYは外人バーに案内すると言う。夜も随分更けており明朝が早いので断った。

六月八日 早朝四時、Aは真つ暗なホテルを一人出て空港へ。ライオンJT 561でジョグジャカルタへ（1・5時間）。

直ぐに仏教寺院ポロブドゥールへ。

ムラピ山の噴火跡が未だ生々しい。密林の中、壮麗で神秘的な世界最大級の発掘された巨大遺跡は重量感に溢れ、精緻で多様なレリーフも圧巻で、想像を絶する偉容にしばし圧倒され呆然と佇む。

ムンドウツ寺院、銀細工の店、国王の公邸、サラサ工房に寄るが、余り関心はない。ジャワ料理の後、世界で最も素晴らしいヒンズウ教のブランバナ寺院に足を踏み入れる。(写真・上)

シバア堂を中心に五堂が整然と配置され、基盤に無数の小祠堂が取り巻いている。ピラミッド型巨大建造物のポロブドゥールとは対称的で、美しく調和のとれた雄大で荘厳な世界遺産である。

原色カラフルな民族衣装の地元女子大生四人に出会い、記念写真を撮る。無垢の純真可憐さが魅力的だ。一人ゆっくり境内を一周する。アングルは絶妙に変化し夫々に趣がある。ミニ車で緑一帯の広い史跡公園をセウ寺院迄遊覧する。

GA252 十六時十五分でテンパザールへ十八時





十六分予定通り到着。

機窓からジャワの三千坪級の富士に似た名峰が、更に山腹に湖を配したアゲン山が雲上に美しい姿を覗かせていた。

Mは午前中、念願のスパでエステを大満喫し、昼からシヨツピングを楽しんだと言う。Iは旅の疲労か、おしゃべり疲れ？か：少し体調を崩し空港近くのホテルで休養する。

例の繁華街のスーパーでY、Mと落ち合い日本料理の店に入るが、全然食欲がない。疲労と食あたりか。二十二時頃Iをピックアップして空港へ。

YのゴールドカードのVIP室は快適、大型ソファアールでゆったり休養できて有難かった。Y、Mは生ビール等手にするが、酒好きのAは、全く飲む気力なく見ているばかり、悔しい！。Iも元気を回復し安心した。

ガルーダ航空G A 8 3 3は深夜一時に出発。格安のエコノミー席は最後尾、幸運に恵まれ空き、空き。真ん中の席を全部独占し、ゆっくり足を伸ばし、横になつて寝て帰った。

六月九日 八時三十分関西空港に予定通り到着。

飛行機で高知へ帰るI、Mを伊丹行の空港バスに見送った後、Y、Aは泉北への空港バスで帰路に就き、楽しかった旅は無事終わった。

### あとがき

今回のバリ旅行は、のどかな常夏の異国情緒豊かな素朴な大自然、各地のエキゾチックで荘厳なヒンズウ寺院、名刹を訪ね、またダイナミックな中にも優雅なバリ舞踊、多彩で牧歌的な絵画など伝統的な芸術、宗教、民族文化の一端にも接する事ができた。生まれて初めて、紺碧のインド洋上からの日の出(朝日)を眺め、果てしない白砂の広大なプライベートビーチで海水浴に興じ、華麗な超一流高級ホテルの中、箱庭的なプール群で、童心に帰り心行くまで水遊びを堪能したのも、夢のような懐かしい思い出である。

マンゴー、椰子など新鮮なトロピカルな果実や特大の伊勢海老、蟹のシーフードなど当地ならではの美味なインドネシア料理と固有の食材をたらふく味わい、赤道直下の太陽のもと最高の優雅でリッチなリゾート気分を満喫し、素晴らしく、楽しい日々の連続だった。また、高校時代に殆どお話しした事の無かった「お嬢様達」と、この旅行をとおして”親しく青春?を共有”出来たのも、無上の幸せだったと思う。

最後に、旅行の発案、計画から実施まで山下君に世話になった。緻密で繊細、バリを熟知した格安プラン、配慮に富んだ日程が、充実した旅行となり皆が満足したと思う。また、彼の行動力、バイタリティーには感服すると共に、外人並みの語学力、交渉力、特に女（男）性術：何時でも何処でも、誰とでも：にも改めて感心させられた。

2011・6・15 上田記（一部加筆）

（追記）同窓生で、バリ島観光に興味のある方は、私達が利用した五つ星の“グランドハイヤットホテル”を何時でもお世話して差し上げます。

タックス込みで三百八十ドルの部屋を百十ドル、勿論一部屋の値段です。二人か三人で割れば、更に超格安！！